APEX CLUB

'08/6

第25号

アペックス産業株式会社

虫の声

☆「後期高齢者医療保険」。何かあからさまに「あなたはもう人生を終えてもいい歳ですよ」と、別扱いするような制度で、温かみが感じられません。
☆少子高齢化に伴う財政負担・現役世代の負担軽減という目的は分からないでもありませんが、若者だっていつかは75歳になるのです。お年寄りを粗末にした国が繁栄した例はありません。
☆お年寄りと若者が率直に話し合い、理解し合う場が必要です。KY(空気が読めない)などと言っているのんきな時代ではないはずです。

『APEX CLUB』
発　行　2008年6月1日(通算25号)
発行所　アペックス産業㈱「APEX CLUB」編集委員会
〒105-0014　東京都港区芝2-23-4
電話 03-3455-6474　FAX 03-3455-6558
ホームページ http://www.apex-sangyo.jp
発行人　元木　貢　(編集委員)山口力広、高塚章夫
佐々木 健
(事 務 局)田口久美

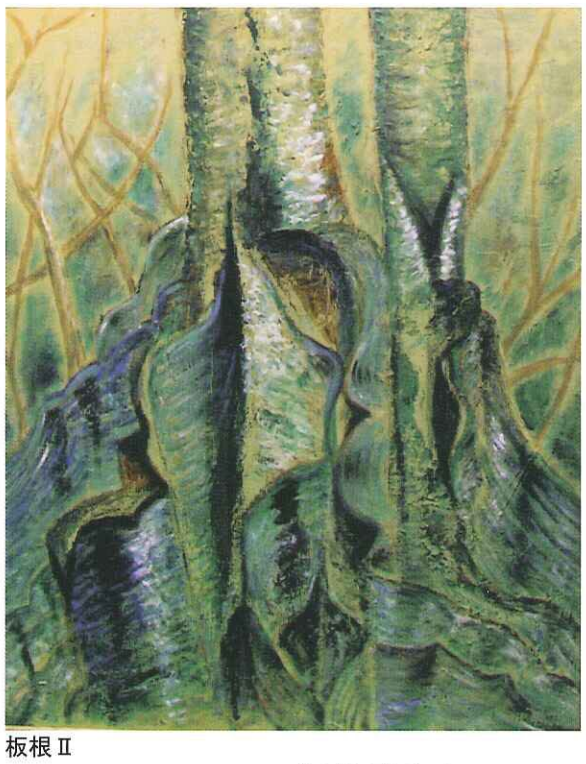
ギャラリー

絵 画

山口 知子

作者プロフィール

1937年　東京日本橋生まれ。
1962年　東京女子医科大学卒業。
1963年　横須賀米国海軍病院インターン終了。
1963年～2000年
東京女子医科大学にて教職(神経生化学)。
この間、ドイツ、アメリカ、フランス、イタリアなどの研究機関との共同研究歴多数。
2000年～現在、南八街病院副院長。



板根Ⅱ

櫻井先生の遺作「野川」

作者寸言

このたび人生の節目である古希を迎えて、女子医大の美術クラブで故櫻井浜江先生に師事して書き始めて今日まで書きためた稚拙な油彩画の個展を、かつて5年間居住した思い出の青山の画廊で、自分への記念として昨年10月に展示した中の作品「板根」2点です。

字や絵は体を表すと言いますが、私の個性が出ていると自他ともに認めるところです。

今年は櫻井先生の生誕100年の記念すべき年で、4月には故郷の山形県酒田市で記念の展覧会が大々的に開かれました。

私などの作品と一緒にお目にかけることなど僭越ではありますが、精神科医療に従事している南八街病院に収納展示している先生の大作(200号)の「野川」を、ぜひご鑑賞ください。

作品に寄せて

沖縄・西表島のマングローブを船で上がったところで、太古から地上に幾重にも張り出した強い板根に支えられた大木を目にした感動を表現した作品です。

まったく違った色調で二つ仕上げた自分らしい絵のひとつです。

板根Ⅰ

むし籠

ヤモリくん

現在当社には、作業員に人気者のニホンヤモリがいます。現場から帰ってきた作業員は、会社で飼っている昆虫を餌にあげたりして、捕食する姿を見て楽しんでいます。

ニホンヤモリは、爬虫類でヘビや亀の仲間です。家屋等に一般的に見られ、昼間は壁や石などの隙間でジッとしています。夜になると、餌になる昆虫等の小動物を狙って隙間から這い出してきます。ちなみに田圃等にいるイモリは両生類でカエルやサンショウウオの仲間です。

ある日、現場に置いてあったゴキブリ調査用の粘着トラップにニホンヤモリが捕獲されていました。

作業員は、逃がしてやろうとしましたが、なかなか外れません。薬剤でやっと剥がすことが出来ましたが弱っていたため、そのまま当社で飼うことになりました。

ヤモリくんは会社にきてから三年目の冬を越しました。

今や、現場で疲れた作業員に脱皮する姿を見せたりして、癒しを与えてくれています。

毒入り餃子と安全

安全とは?と改めて考えなくてはならない時代なのかも知れません。

中国から輸入した冷凍餃子を食べ嘔吐した会社員の胃の内容物から、農薬に指定されている有機リン剤「メタミドホス」が検出され、さらに別の地区では冷凍餃子の外袋と餃子の皮から有機リン剤ジクロルボス(DDVP)が検出されました。前者は未だ未解決で、後者は、PCO業者が害虫駆除で室内に設置したDDVP蒸散剤が混入したのが原因と考えられています。

現在さまざまな業種で「安全への取り組み」がされています。我々PCOも、むやみに薬剤を散布するのではなく、IPM(総合的有害生物管理)という考え方で、害虫の生態を日々勉強し、薬剤を使用する時は必要量を、用法・用量を守った使い方で、害虫と闘っていかなければなりません。

当社では、作業実施前に、お客様へ事前通知でお知らせしています。薬剤名や処置箇所・方法、実施日時や告知事項などです。その際、使用薬剤の製品安全データシート(MSDS)を添えています。

また、毎年変わっていく害虫への取り組みの一環として、社内研修を最低月一回実施しています。

安全とは=危険がなく安心なことという意味です。出来る限り危険を回避したいものです。

おじゃま虫 Q&A

ハトの被害に関するお問い合わせ

AQ　家にハトが巣を作ってしまいました。どうしたらいいですか?

AQ　生きた卵、雛がいなければ除去することが出来ます。すでに卵を産み、あるいは雛がいる場合は、鳥獣保護法によって巣の除去は禁じられています。その場合は保健所や、近くのPCO業者に相談するのがいいでしょう。しかし、除去には各自治体の許可が必要で、許可が下りるまで一ヶ月程度かかる場合があります。

AQ　ベランダに毎日、多くのハトが飛来し、フンや鳴き声で困っているのですが。

ハトは鳥獣保護法によって、捕獲処分等が禁じられていますので、保健所や近くのPCO業者に相談してください。ネットやワイヤー等を利用した工事によって飛来を防ぐ等の対策があります。

ハトはバイ菌を持っていますか?

ハトはクリプトコッカス症や、オウム病、ニューカッスル病等を媒介します。特にクリプトコッカス症は、病原菌が糞の中に存在し、乾燥にも強いため、糞の除去が重要です。また、ワクモやトリサシダニ等の、人を吸血するダニ類が寄生してしているため、近くに巣がある場合は、痒み被害が引き起こされることがあります。

除去(行政の承認後)の際には、マスクの着用、作業後の手洗い、殺菌をお忘れなく。

虫めがね

佐々同門会とのかかわり

文系だった私は、アペックス入社にあたって、アメリカのペストコントロールの講座がある大学に留学したらどうかという話が持ち上がりました。当社創立以来の恩人である米軍の昆虫学者のモリル氏に相談したところ、当時、東京大学医科学研究所寄生虫研究部教授であった佐々学先生を紹介していただきました。

さっそく、大学四年の夏休みに岡山で行っている日本脳炎媒介蚊の研究のアルバイトをすることになりました。岡山大学前の小さな旅館の六畳間に三人雑魚寝で、岡大医学部寄生虫研究室との往復の毎日でした。

牛舎に行って徹夜で蚊の採集を行い、研究室で来る日も来る日も蚊の同定作業に明け暮れました。おかげで、飛んでいる蚊を見ると種類が判るまでになりました。

入社した翌年にアメリカのPCO従事者マニュアルを翻訳することになり、熱海の保養所に佐々先生と医科研の先輩諸氏と缶詰になって作業を進めました。やっとの思いで担当分を終え先輩諸氏と町へ繰り出したのですが、夜遅く帰ると佐々先生が全員の分の校正を終わられて脱帽したことがあります。

以来、PCO協会の催し、ねずみ駆除協議会の会長、アジアPCO連盟(FAOPMA)の設立総会の議長など、影になり日向になり業界をバックアップしていただきました。

また、同門会の諸先生にも協会の理事や委員会活動をお引き受けいただき、今日の協会の基盤となっています。

このたび、諸先生のご指導により麻布大学から学術博士(環境保健学)の学位をいただきました。このような環境を与えていただいた佐々先生そして同門の先生方、日本衛生動物学会、日本ダニ学会などの諸先生に心から感謝するとともに、業界と学会との橋渡し役として微力ながらこれからもお役に立つよう努力していく所存です。(貢)